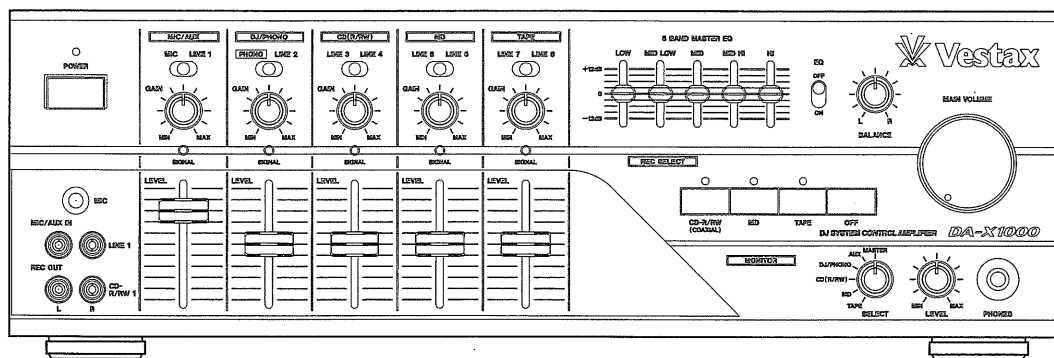
D00716600A

Vestax

DJ System Control Amplifier

DA-X1000

取 扱 説 明 書

ベスタクス株式会社

〒154-0023　東京都世田谷区若林 1-18-6
TEL : 03-3412-7011　FAX : 03-3412-7013
WEB : www.vestax.com

安全にお使いいただくために

この取扱説明書への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

	万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店または当社に修理をご依頼ください。
	万一機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店または当社にご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店または当社に交換をご依頼ください。 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の上に花びんや水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。
	電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。
	電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。
	この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店または当社にご依頼ください。
	この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

安全にお使いいただくために

⚠警告

	この機器を設置する場合は、壁から20 cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2 cm以上、背面から10 cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店または当社にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠注意

	オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。
	電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。 ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所 ・湿気やほこりの多い場所 ・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所
	電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
	移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
	お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

1. はじめに

この度は、Vestax DA-X1000をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱い方法をご理解いただいた上で、充分に機能を発揮させ末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

DA-X1000はアンプを内蔵したDJミキサーで、各種ライン入力、マイクおよびレコードプレーヤーを接続することができます。

主な機能

- レコードプレーヤーやマイクを含む最大10系統の音源を接続可能。
- 接続した音源の中から5系統までを同時に利用可能。
- フロントパネルのフェーダーを使ってクロスフェード操作（音量を少しずつ下げながら、別の入力音源の音量を少しずつ上げてゆく操作）が可能。
- カラーインジケーターによる入力レベルの的確な監視が可能。
- 5バンドグラフィックイコライザーによるサウンド加工が可能。
- デジタルおよびアナログ出力を装備。最新のレコーディングテクニックを使ったレコーディングが可能。
- 100ワット／チャンネルのパワーアンプにより、2組のステレオスピーカーをドライブ可能。

接続上のご注意

接続の際は、本機および外部機器の電源をオフの状態で行なってください。

電源をオンの状態で接続を行なったり接続を外した場合、本機や外部機器に損傷を与える場合があります。

一般的にステレオケーブルの場合、赤いコネクターを右(R)チャンネル、白い（あるいは黒い）コネクターを左(L)チャンネルに接続します。

スピーカー

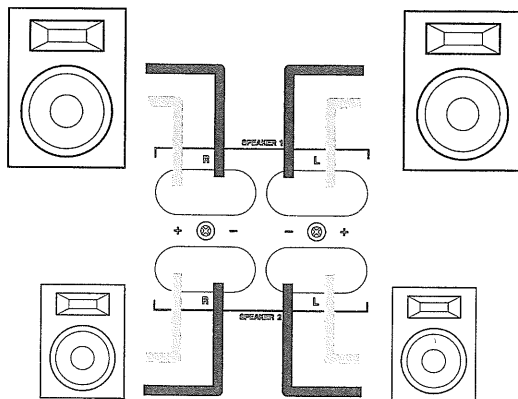
本機の最大出力ワット数は100ワット／チャンネルです。したがって、本機には許容入力100ワット以上のスピーカーを接続してください。

また、スピーカーのインピーダンスが適正でなければなりません。

スピーカーを1組のみ接続する場合、インピーダンス4Ω～16Ωのスピーカーをお使いください。2組のスピーカーを接続する場合、インピーダンス8Ω～32Ωのスピーカーをお使いください。

ご使用のスピーカーが適正であるかどうかが不明な場合は、当社カスタマーサービスにお問い合わせください。

必ずスピーカーの＋端子（通常は赤）と－端子（通常は黒）を、それぞれ本機のSPEAKER OUTの赤い＋端子と黒い－端子に接続してください。

スピーカーを1組のみ接続する場合、SPEAKER 1とSPEAKER 2のどちらの端子に接続してもかまいません。ただし、「片側をSPEAKER 1、もう一方をSPEAKER 2に接続」というような接続はしないでください。

レコードプレーヤー

リアパネルのPHONO端子に接続します。
レコードプレーヤーを他の端子に接続しないでください。またレコードプレーヤー以外の機器をPHONO端子に接続しないでください。

マイクロホン

マイクロホンを直接本機に接続する場合、フロントパネルのMICジャック（6φフォンタイプ）に接続します。

ご使用のマイクロホンが本機に接続可能かどうかが不明な場合は、当社カスタマーサービスにお問い合わせください。

その他の音源

リアパネルのライン入力端子（LINE 2〜LINE 8）およびフロントパネルのライン入力端子（LINE 1）に、その他のラインレベル音源を接続します。

リアパネルの各ライン入力端子には、LINE番号とともに機器の種類（CD(CD-RW)、MD、TAPE）が表記され、フロントパネルのミキサーチャンネル名称に対応しています。

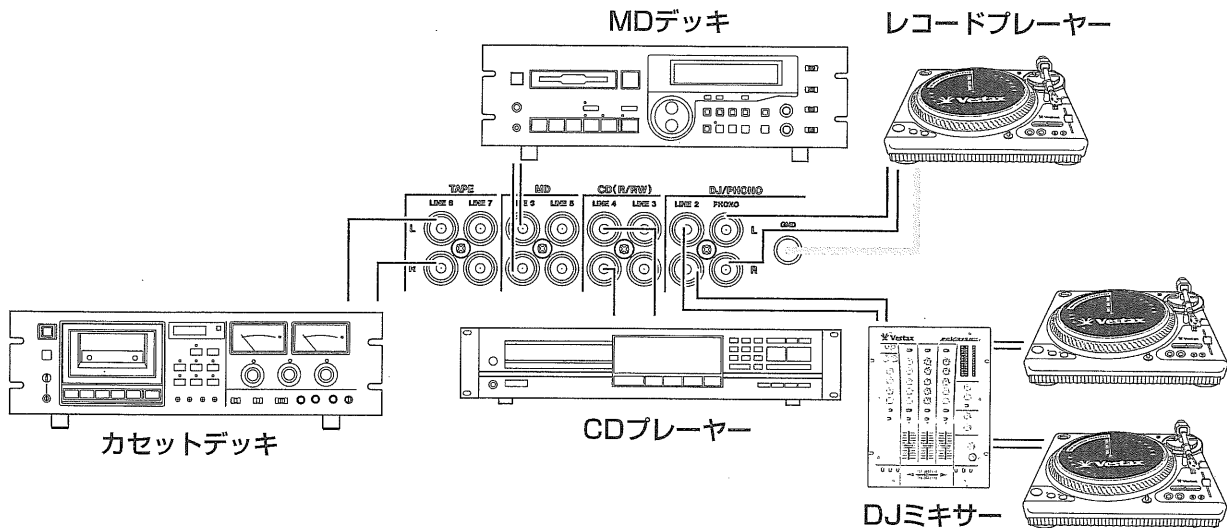
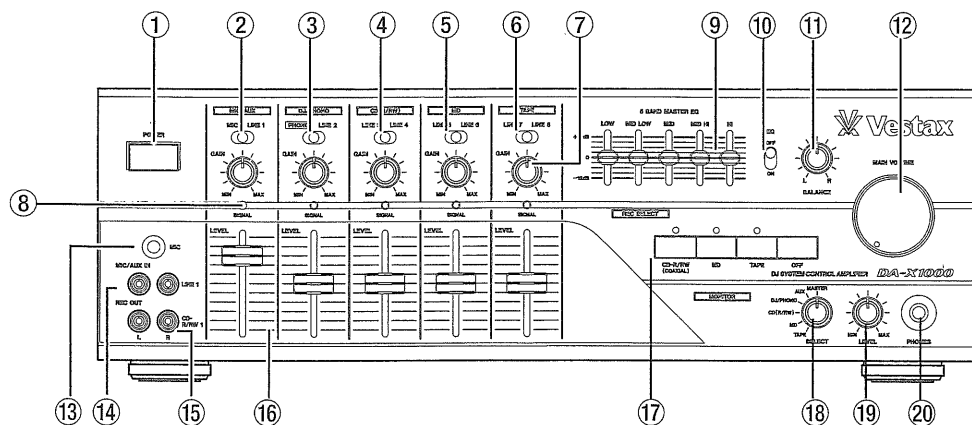
メモ

- ライン入力端子（LINE 1〜LINE 8）の電気／機械的仕様はすべて同じです。したがって機器の種類（CD(CD-RW)、MD、TAPE）の表記にこだわる必要はありません。例えばTAPE端子にMDデッキを接続することもできます。

レコーダーへの接続

録音用のアナログライン出力（REC OUT）端子がフロントパネルに1系統（CD-R/RW）、リアパネルに3系統（CD-R/RW、MD、TAPE）装備されています。これらは外部レコーダーのライン入力端子と接続します。

メモ

- これらの端子の電気／機械的仕様はすべて同じです。ライン入力端子の場合と同様に、特に表記にこだわる必要はありません。
  ただし、同じレコーダーの入出力端子を、本機の同じ表記の端子に接続することをお勧めします。たとえば、本機のREC OUTのCD-R/RW端子と接続する機器の出力端子は、本機のCD-R/RWチャンネルの入力端子（LINE 3またはLINE 4）に接続するとよいでしょう。
- OPTICAL出力端子も装備していますので、オプティカル入力端子を持つCD-R/CD-RWレコーダーなどに接続することが可能です。

フロントパネル

本機のフロントパネルの各コントロールの機能を以下に説明します。

① POWERスイッチとインジケーター

本機の電源のオン／オフを行ないます。オン時にインジケーターが点灯します。

② MIC/AUX入力セレクター

MIC/AUXチャンネルの入力ソース（フロントのMIC入力またはLINE 1入力）を切り換え／選択します。

③ DJ/PHONO入力セレクター

DJ/PHONOチャンネルの入力ソース（PHONO入力またはLINE 2入力）を切り換え／選択します。

④ CD (R/RW)入力セレクター

CD (R/RW)チャンネルの入力ソース（LINE 3入力またはLINE 4入力）を切り換え／選択します。

⑤ MD入力セレクター

MDチャンネルの入力ソース（LINE 5入力またはLINE 6入力）を切り換え／選択します。

⑥ TAPE入力セレクター

TAPEチャンネルの入力ソース（LINE 7入力またはLINE 8入力）を切り換え／選択します。

⑦ GAINつまみ

それぞれのチャンネルの入力信号のゲインを調節します。SIGNAL/PEAKインジケーターを見ながら最適位置に設定します。

⑧ SIGNAL/PEAKインジケーター

GAINつまみで調整したチャンネル入力レベルに応じて、点灯／点滅表示を行ないます。

入力がある場合は緑色に点灯します。ただし、入力レベルが大きすぎると赤色に点灯します。

なおインジケーターはGAINつまみで調整した信号レベルに反応します。フェーダーの音量調整には反応しません。

⑨ 5 BAND MASTER EQ

出力信号の音質を変えるための5バンドイコライザーです。音域別の各スライドつまみを上げるとその音域がブースト（増幅）され、下げるとカット（低減）されます。センターのクリック位置が未加工の位置です。

⑩ EQスイッチ

上記の5 BAND MASTER EQのオン／オフを行ないます。オフにするとEQが効かなくなります。

⑪ BALANCEつまみ

SPEAKER OUT端子の左右の音量バランスを調整します。

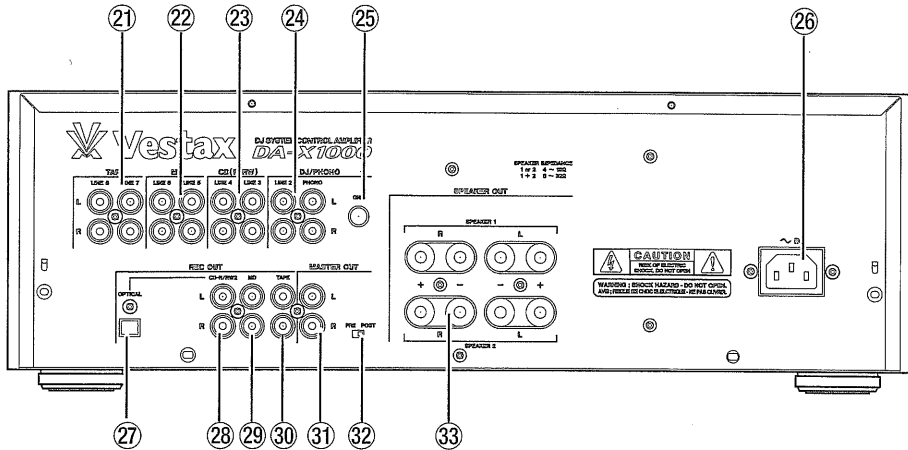
⑫ MAIN VOLUMEつまみ

SPEAKER OUT端子およびMASTER OUT端子からの出力レベルを調節します。

⑬ MIC端子

マイクロホンを接続します。MIC/AUXチャンネルのソースにすることができます。

⑭ LINE 1端子

ラインレベル信号の入力端子です。MIC/AUXチャンネルのソースにすることができます。

⑮ CD-R/RW 1端子

CD-R/CD-RWレコーダーの入力端子と接続するためのライン出力端子です。

⑯ LEVELフェーダー

各プログラム入力の音量を調整します。
フェーダー位置が一番上で最大音量、一番下で最小音量となります。通常は、目盛りの2/3より少し上の位置、でお使いください。

⑰ REC SELECTセクション

録音出力を選択します。希望のキー（CD-R/RW 2、MD、TAPE）を押すとインジケーターが点灯し、対応する出力端子に出力信号が送られます。OPTICAL出力を使うときは"CD-R/RW"を選択します。録音しないときはOFFキーを押します。[→ 9ページ「ミックスを録音する」]

ご注意

OPTICAL出力は、CD/RW用の出力のみに対応しています。

⑱ MONITOR SELECTスイッチ

ヘッドホンでモニターする信号を選択します。各入力チャンネルの入力信号およびMASTER OUT出力信号（それぞれプリフェーダー信号）の中から選択できます。

⑲ MONITOR LEVELつまみ

ヘッドホンモニターレベルを調節します。

⑳ PHONES端子

6φのステレオヘッドホンを接続するための端子です。

リアパネル

本機と外部機器との接続に関しての詳細は「接続上のご注意」（4ページ）をご参照ください。

㉑ TAPE (LINE 7, LINE 8)端子

テープデッキのライン出力端子に接続します。

㉒ MD (LINE 5, LINE 6)端子

MDデッキのライン出力端子に接続します。

㉓ CD (R/RW) (LINE 3, LINE 4)端子

CDプレーヤーやCD-R/CD-RWレコーダーのライン出力端子に接続します。

㉔ DJ/PHONO (LINE 2, PHONO)端子

LINE 2端子にDJミキサーのライン出力端子を接続します。
PHONO端子にはレコードプレーヤーを接続します。

ご注意

レコードプレーヤーの出力レベルは低いので、フォノアンプが内蔵されたPHONO端子に接続してください。
またレコードプレーヤー以外の機器をPHONO端子に接続しないでください。

㉕ GND端子

レコードプレーヤーから出ているアース線を接続します。

㉖ ～INコネクター

付属の電源コードを接続します。
電源コードは必ず100ボルトの電源に接続してください。

㉗ REC OUT (OPTICAL) 端子
CD-R/CD-RWレコーダーなどのオプティカル入力端子と接続するためのデジタル出力端子です。

ご注意

REC SELECTキーでCD/RWを選択したときのみ、出力されます。

㉘ REC OUT (CD-R/RW) 端子
CD-R/CD-RWレコーダーの入力端子と接続するためのライン出力端子です。

㉙ REC OUT (MD) 端子
MDレコーダーの入力端子と接続するためのライン出力端子です。

㉚ REC OUT (TAPE) 端子
テープレコーダーの入力端子と接続するためのライン出力端子です。

㉛ MASTER OUT端子
出力信号を別のパワーアンプに送るためのライン出力端子です。

㉜ MASTER OUT PRE/POSTスイッチ
MASTER OUT端子からの出力信号を、MASTER VOLUMEつまみの前（PRE）から取るか、つまみの後（POST）から取るかを選択します。
POSTに設定するとMASTER VOLUMEつまみの影響を受け、PREにすると影響を受けません。

ご注意

このスイッチの切り換えは、必ず本機および接続機器の電源がオフの状態で行なってください。

㉝ SPEAKER 1、SPEAKER 2コネクター
スピーカーを接続するための端子です。
接続に関するご注意などは「接続上のご注意」（4ページ）をご参照ください。

3. DA-X1000を使う

再生

すべての接続を終えたら、いつでもDA-X1000を使用することができます。

1. まず最初に、各チャンネルの入力セレクターを使って各チャンネルのソースを選択します（MIC－LINE 1、PHONO－LINE 2、LINE 3－LINE 4など）。

2. フェーダーとGAINつまみを最小位置の状態にして、ソース機器を再生します。

3. SIGNAL/CLIPインジケーターが頻繁に赤く点灯するようになるまで、GAINつまみを上げます。

4. フェーダーを上げ、MAIN VOLUMEつまみを使って希望の音量に設定します。

5. 他のソースも同じようにレベル設定を行ないます。
フェーダーを使ってクロスフェード操作を行なう場合は、練習してみましょう。

バランスを調整する
2つのスピーカーから等距離でない位置では、近いスピーカーの音が大きく聞こえます。BALANCEコントロールを使ってこれを補正することができます。

音質を変える
5 BAND MASTER EQを使って、出力信号にイコライザーを掛けることができます。イコライザーを掛けるときは、必ずEQスイッチをオンにしてください。オフにすると、5 BAND MASTER EQが効きません。
5 BAND MASTER EQの5つのスライドつまみ（LOW、MID LOW、MID、MID HI、HI）は、それぞれセンター位置にクリック点があります。この位置が未加工の位置です。上げるとブースト（増幅）され、下げるとカット（低減）されます。

メモ

- LOWとHIを上げてMIDを少し下げると、迫力のあるサウンドになります。

ヘッドホンでモニターする
スピーカーから音を出さない状態で、あるいはスピーカーから出している音と別のソースを、ヘッドホンモニターすることができます。この機能を使って演奏中に（あるいは演奏前に）次のソースを頭出しすることができます。
ヘッドホンはPHONES端子に接続します。
ヘッドホンモニターする信号は、MONITOR SELECTスイッチを使って選択します。各入力チャンネルの入力信号（プリフェーダー信号）およびMASTER OUT出力信号（MAIN VOLUME手前の信号）の中から選択できます。したがって、

フェーダー（MASTER OUT出力信号の場合はMAIN VOLUME）を下げた状態にしておくと、スピーカーに信号を送らずにヘッドホンのみでモニターできます。
ヘッドホンの音量はMONITOR LEVELつまみで調節します。

ミックスを録音する

重要

録音を行なう場合、著作権侵害にご注意ください。

ミックスを作って、CDレコーダー、MDレコーダー、カセットデッキなどに録音してみましょう。

メモ

- 録音する機器の音を録音することはできません。

「録音する機器の出力を接続したライン入力は、ソースとして選択することができません。」

1. 録音機器の入力端子をREC OUT端子（OPTICAL、CD-R/RW 2、MD、TAPE、またはフロントパネルのCD-R/RW 1）に接続します。

2. REC SELECTセクションの希望のキー（CD-R/RW 2、MD、TAPE）を押します。
   インジケーターが点灯し、対応する出力端子に出力信号が送られます。
   "CD-R/RW"を選択すると、CD-R/RW 1、CD-R/RW 2、OPTICALの3系統の出力にミックス信号が出力されます。
   録音しないときはOFFキーを押します。

メモ

- REC SELECTセクションのキー（CD-R/RW 2、MD、TAPE、OFF）を2つ以上押すことはできません。

4. 仕様

入力端子

MIC (3極標準ジャック)	バランス、−50 dBV／3.3 kΩ
PHONO (RCAピン)	−45 dBV (@1 kHz)／47 kΩ
LINE 1～LINE 8 (RCAピン)	0 dBV／47 kΩ

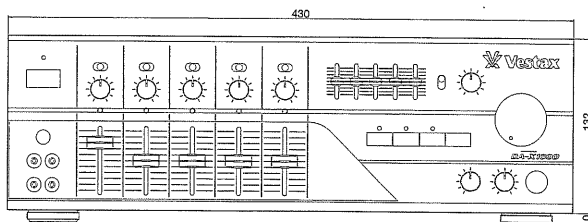
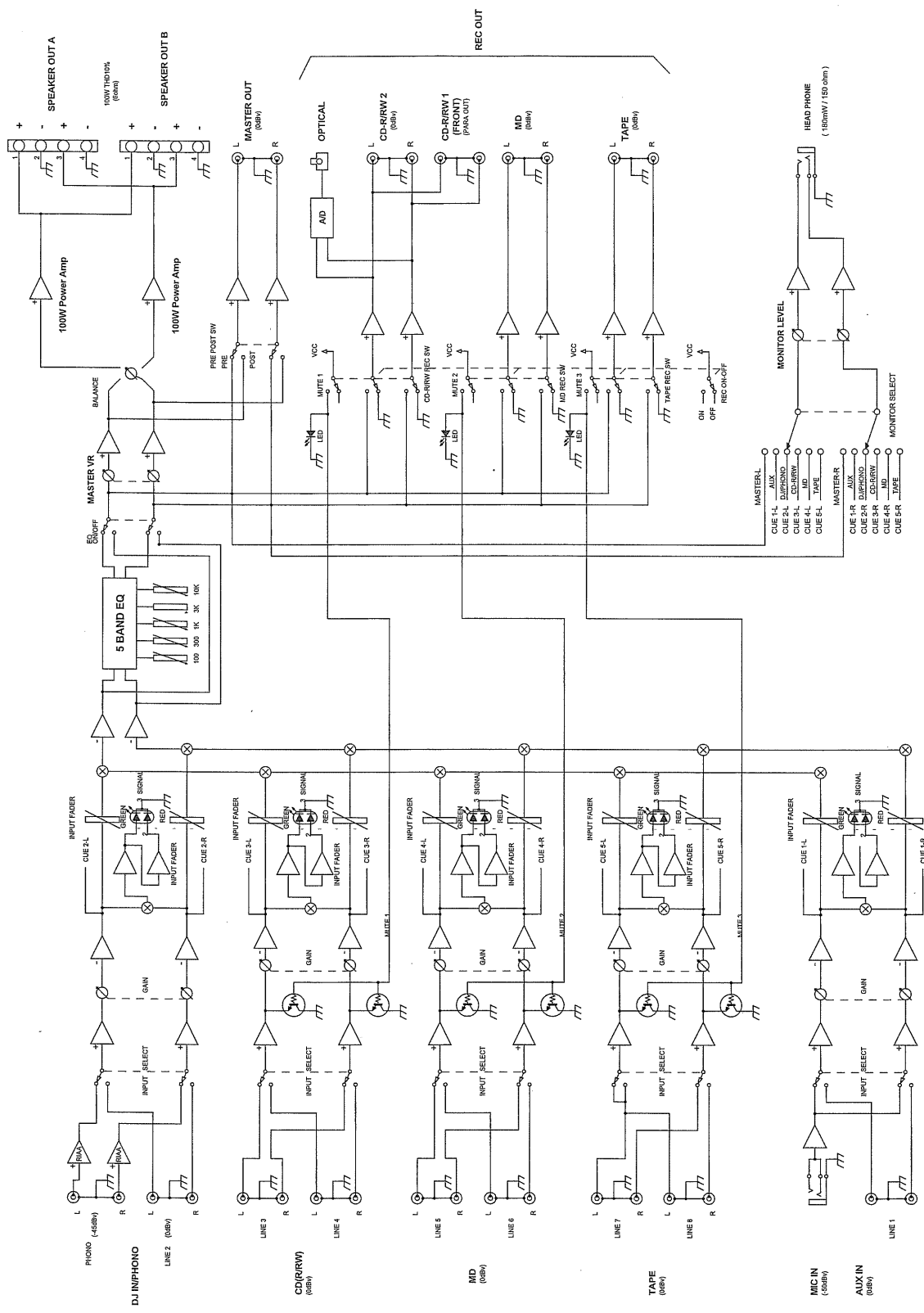
出力端子

REC OUT（CD-R/RW 2、MD、TAPE)	0 dBV／10kΩ
REC OUT（OPTICAL)	IEC-60958 Type II (S/PDIF)
MASTER OUT	0 dBV／10 kΩ
SPEAKER OUT	100W + 100W (最大、6Ω負荷時)
PHONES (ステレオ標準ジャック)	180mW + 180mW (150Ω負荷時)

一般仕様

電源電圧	100V AC、50-60Hz
消費電力	150W
外形寸法	430×141×390 (幅×高さ×奥行き)
質量	10.0 kg

寸法図

20
10
INPUT (0dBv) 0
DJ IN CD(R/RW)
MD TAPE
AUX IN
-10
-20
-30
-40
PHONO (-45dBv)
MIC (-50dBv) -50
CLIPPING LEVEL.(+18dBv)
TRIM
-10dBv
LEVEL FADER
0dBv
MAX
5 BAND EQ
+12dB
-12dB
100Hz
300Hz
1kHz
3kHz
10kHz
MASTER
BALANCE
0dBv
MAX
0dBv
0dBv
PRE
0dBv
0dBv
H.P MONITOR
MAX
0dBv
SP OUT
100W
(6 ohm)
MASTER OUT
(0dBv)
REC OUT
(0dBv)
CD-R/RW 1
CD-R/RW 2
MD
TAPE
H.P OUT
(180mW/150ohm)

保証書（別途）

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受取っていただき内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間：お買い上げ日から１年です。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り８年です。
この期間は通産省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持する為に必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談並びにご不明な点は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは

異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
（保証期間中であっても、内容により有償となる場合があります。）

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

便利メモ

お買い上げの日

お買い上げ店名　　　　　TEL．（　　）　　－

Vestax Corporation